

研究・調査報告書

報告書番号	担当
247	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名（原題／訳）	
Neurobiology and neurodevelopmental impact of childhood traumatic stress and prenatal alcohol exposure. 小児期トラウマ的ストレスと出生前のアルコール暴露の神経生物学および神経発達への影響	
執筆者	
Henry J, Sloane M, Black-Pond C.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Lang Speech Hear Serv Sch. 2007 Apr;38(2):99-108.	
キーワード	
小児期トラウマ、発達遅延、言語発達遅延、出生前アルコール暴露	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>出生前のアルコール暴露と小児期トラウマ（虐待、無視、性的虐待、等）が小児発達に有害な影響を与えることが各方面から報告されている。本研究では、出生前のアルコール暴露と出生後のトラウマ経験が、出生後トラウマ経験のみに比べて、小児期神経発達に与える影響を分析する。この両者それぞれの悪影響はすでに多数報告されているが、両者を合わせた小児発達プロセスへの影響についての報告はない。</p> <p>方法：</p> <p>小児の分野横断的なアセスメントには医学、言語病理、作業療法、ソーシャルワーク、心理学の手法が含まれる。初期発達分野における情報は、医学検査、標準化された発達および知能の検査、親への質問、心理社会的質問調査によって収集された。</p> <p>結果：</p> <p>出生後のトラウマ経験とともに出生前のアルコール暴露があった小児は、アルコール暴露がなかった小児に比べて、知能指数が低く、言語、記憶、視覚処理、運動機能、注意力における神経発達障害が重かった。さらに、反抗行動、注意力欠如、過活発、衝動性、社会的問題が多く見られた。</p> <p>結論：</p> <p>トラウマ経験とともに出生前のアルコール暴露がある小児に対する教師と言語療法士による介入には、さらなる展開と発展が必要である。</p>	